

ふるさとの地名編

高倉

湯ヶ作山と呼ばれる高倉の山

現在のデータ
地区内で住所大字として使用されている。石岡市に隣接している地区。



かすみがうら市の北部に「高倉」があります。高倉は、弘安2年の土地台帳(1279)の「常陸国作田惣勘文案」に「高倉十二丁」とあることから、鎌倉時代の頃には「高倉」の地名が定着していたと考えられます。また、高倉の山中には阿弥陀院があり、「元亨四年(1324)二月廿日 常陸国北郡高倉郷住僧隋智」の銘文をもつ阿弥陀如来石仏があります。この地が北郡高倉と呼ばれていたことが分かります。「タカクラ」には、床の高い倉(物を保管・貯蔵する)の他に高い所に設けた座席(神の居場所などを含む)という意味があります。何か、高倉の場所も神仏が拠り所とする場所と考



高倉の地名をしめす石造阿弥陀如来立像

下稲吉小学校

開かれた学校を目指して

学び合い、
かかわりあい、
「社会力」が育つ学校

地域のみなさん

「下小へ行こう！」



休み時間に校庭で遊ぶ児童を毎日見守っていただいています！

児童を見守る
—地域愛—



本年度は、下稲吉小学校の子どもたちを「地域の愛」で包んでもらおうと、地域の方々に「下小へ行こう！」の文書を配布しました。中休み・昼休みに下稲吉小学校に遊びに来ていただき、子どもたちがのびのびと成長してゆく姿を、学校とともに見守ってもらいたいとの願いを伝えたところ、校庭に用意されたテントには、地域の祖父母や保護者が子どもたちの活動を温かい目で見守ってくれる姿が毎日見られるようになり、子どもたちは「地域の愛」で包まれています。

人とかかわりを大切にし、
児童の「社会力」を
高めるために

本校では、昨年度より、毎週火曜日の昼を「下小タイム」の時間とし、児童同士、児童と教師が共にかかわり合い、汗を流す時間として、全校奉仕作業、学級・学年によるレクリエーション、縦割り班「きらめき隊」による昔の遊びやネイチャービンゴ・シャボン玉集会など、異学年によるさまざまな活動を行なっています。その中で児童は、お互いをいたわり、思いやる気持ちが育ってきています。



全校奉仕作業で校庭をきれいにする児童

人とかかわりは
あいさつから！

「人とかかわりはあいさつから」と毎朝校門や昇降口では高学年児童による、「下小元気にし隊」の中の「あいさつ隊」が元気な朝のあいさつを行なっています。その傍らでは「クリーン隊」が朝の清掃ボランティア活動を行い、そして「エコ隊」が水道メーター調査などのエコライフ啓発活動を行なっています。下稲吉小学校を元気にしようとする児童一人一人が、がんばっています。



のぼりを持って下級生を迎える「あいさつ隊」

文芸ひろば

俳句

衝突を避けて跳ねたり水馬
山百合や筑波古道の道しるべ
紫陽花の毬太りゆく雨上り
蛇行して流れ行く川梅雨の蝶
岩かげの滴り羅漢の頬けずる
江戸風鈴風の和らぐ夕ごろ
新樹光受けて若さを戻しけり
滴りのしたたりやまず観音堂

短歌

代掻きて平となりし田の面はいよいよ育ちし早苗を植えむ
八重桜ハラハラと散るコートにて熟年吾等ゲートボールを
瀬戸内の夕陽は小舟をひからせぬ古稀祝はれて牛窓の旅
折りに触れ積ん読本を手にすれば心の渇き潤ひてゆく
やまぼうし十の字に開く白き花みな上向きてこぞ咲きたり
この孫が我が手を引くその時は吾の姿はいかにあらんや
ジャスミンの香に誘はれて道回りたどれば垣根になつかしの花
マグノリア誤り折りて頂くも生活の丈に余る華やぎ
梅雨空に純色の藍かざしいるみのることなきあじさい花球

- 橋本とし(粟田)
- 畑百合子(上佐谷)
- 的場トシ子(上土田)
- 目黒しづ子(稲吉東)
- 佐藤千代(倉)
- 名倉観子(下大堤)
- 小室貞江(西成井)
- 渡辺静江(稲吉東)
- 前嶋武(上土田)